

2007年2月15日

**プレスリリース**

本資料は2月15日にチュ  
ーリッヒで発表されたプレ  
スリリースの翻訳版です

**オズワルド・グリューベル  
クレディ・スイス・グループ最高経営責任者を辞任****取締役会、後任にブレイディ・ドゥーガンを任命****インベストメント・バンキング部門最高経営責任者にポール・カレロを任命****アメリカ地域最高経営責任者としてロバート・シャフィアが加入**

クレディ・スイス・グループは、同社取締役会が最高経営責任者オズワルド・グリューベルの後任に2007年5月5日付けでブレイディ・ドゥーガンを指名する、と発表しました。グリューベルは、2007年5月4日の年次株主総会をもって辞任する意向を取締役に伝えています。

クレディ・スイス・グループ取締役会会長のウォルター・キールホルツは次のように述べています。「ブレイディ・ドゥーガンのような優れた経営者がクレディ・スイス・グループを率いていくことを幸運に思います。同氏はクレディ・スイスで過去17年にわたり、多くの実績を残してきました。統合ビジネスモデルの構築における経営陣の主要メンバーであり、またインベストメント・バンキング部門の業績強化に貢献してきました。世界のプレミアバンクになることを目標とする当社にとって、同氏のアジア、欧州、米国での経験はかけがえのないものとなるでしょう」

「今回の経営陣変更は、2006年に過去最高の業績を達成したことに合わせて発表しましたが、私たちはグリューベルにとっても感謝しています。同氏の指導力が、この成功のかぎでした。同氏はほぼ40年クレディ・スイスに勤め、最高経営責任者という最高ポストに上りつめ、クレディ・スイスを統合されたグローバルバンクへと大きく変革し、収益力と株主価値の大きな向上を実現しました。また、取締役会と密接に協力し、業務の円滑な移行をおこないました。取締役会、社員、株主を代表して、クレディ・スイスに多大な貢献をした同氏に感謝の意を表します」（キールホルツ）

オズワルド・グリューベルは次のように述べています。「クレディ・スイスを単一ブランドの下に統合されたグローバルバンクに変革することができ、最高経営責任者として満足できる任期を過ごすことができました。顧客の皆様からの反応も良好で、今クレディ・スイスはさらに価値を高めていく機会に恵まれています。ドゥーガンは主要経営メンバーとして統合バンクの構築に深

く関与し、当社の戦略をよく理解しています。ドゥーガンがクレディ・スイスを率いていくことを嬉しく思います」

新しいリーダーとしての役割について、ブレイディ・ドゥーガンは次のように述べています。

「世界中の優秀な人が集う会社の経営を任されたことを光栄に思います。私たちはさらなる成長を遂げるための強固な事業基盤を構築し、未だ金融業界の歴史に残る偉大な価値創造を始めたいばかりだと考えます。顧客に包括的なソリューションを提供するために、バンキング部門全体の経営資源を活用し、顧客ニーズを重視することによって、さらに進展できると思います。統合事業モデルに資本を投下し、高い成長を見込める市場や商品分野を拡充し、優れた利益を確保することが優先事項です。優秀な経営陣ならびに取締役会と会長の支援を得て、今後ともプレミアバンクとして繁栄を続けるものと確信しています」

アジア太平洋地域最高経営責任者兼エグゼクティブ・ボード・メンバーのポール・カレロを、インベストメント・バンキング部門最高経営責任者としてドゥーガンの後任に指名したことについて、キールホルツは次のように述べています。「カレロはクレディ・スイスに17年以上勤務し、ロンドン、香港、ニューヨーク、東京で豊富な国際経験を積んでいます。多くの分野における幅広い経験と実績をもち、リーダーとして尊敬を集めています。統合バンクの構築にも極めて重要な役割を果たしました。アジア太平洋地域ではインベストメント・バンキング、プライベート・バンキング、アセット・マネジメントの3部門全てにおいて世界最高レベルの事業を実現しました。アジア太平洋地域最高経営責任者の役職は、後任が任命されるまで兼任します」

ポール・カレロは新しい任務について次のように述べています。「インベストメント・バンキング部門にさらなる勢いをもたらす機会を与えられ光栄に思います。グローバルな能力の活用に尽力する優秀な人材がおり、クレディ・スイスが統合バンクとして成功し続けるために、インベストメント・バンキング部門は重要な役割を担っています。機会は非常に多くあり、私たちはそれを実現できると確信しています」

クレディ・スイスは、また、米州地域最高経営責任者兼エグゼクティブ・ボード・メンバーとしてロバート・シャフィアが加わると発表しました。シャフィアはリーマン・ブラザーズに15年以上在籍し、株式部門責任者、経営委員会メンバーを務めました。クレディ・スイスでは、インベストメント・バンキング、プライベート・バンキング、アセット・マネジメントの各部門と共に、他の地域と同じく統合アプローチを進めます。

### **ブレイディ・ドゥーガン**

1990年クレディ・スイス・ファースト・ボストン（現クレディ・スイス）入社。グローバル債券資本市場部門共同責任者を経て、5年間にわたり株式部門責任者を務める。2001年証券部門責任者就任。2002年法人向け証券部門共同責任者に就任し、株式、債券、インベストメント・バンキング、プライベート・エクイティに関する業務および戦略を統括。2004年7月クレディ・スイス・ファースト・ボストン最高経営責任者就任。クレディ・スイス・ファースト・ボストン入社前は、バンカーズ・トラストのデリバティブ部門に勤務。米シカゴ大学経済学部卒。米シカゴ大学大学院経営学修士号（財務専攻）取得。

### **ポール・カレロ**

クレディ・スイスのアジア太平洋地域最高経営責任者兼エグゼクティブ・ボード・メンバーとして、同地域におけるインベストメント・バンキング、プライベート・バンキング、アセット・マ

ネジメント業務を統括。クレディ・スイスのアジア太平洋地域慈善委員会会長も兼務。1990年クレディ・スイス・ファースト・ボストン（現クレディ・スイス）入社。クレディ・スイスのアジア太平洋地域最高経営責任者として、同地域の資本市場の発展に重要な役割を果たし、クレディ・スイスの同地域における主要銀行としての地位強化につながる多くの取引に関与。現職就任前は、デリバティブ部門をグローバルに率いる要職を歴任し、株式、金利、クレジット、コモディティなどさまざまな商品にかかわる業務を統括した。米ビラノバ大学卒業。コロンビア大学大学院経営学修士号取得。コロンビア大学社会人 MBA 課程の講師（財務担当）も務めた。

### ロバート・シャフィア

リーマン・ブラザーズに15年以上勤務した後、クレディ・スイスに入社。リーマン・ブラザーズでは、欧州株式部門責任者、株式トレーディング部門責任者、株式部門責任者、経営委員会メンバーなどの要職を通じ、同社の株式事業の基盤をグローバルに育て上げた。米ペンシルバニア州ラファイエット大学経済学部卒。コロンビア大学大学院経営学修士号取得。

### 本件に関するお問い合わせ先

コーポレート・コミュニケーションズ

梶野 勇

Tel 03 4550 9893

Email [isamu.kajino@credit-suisse.com](mailto:isamu.kajino@credit-suisse.com)

### クレディ・スイス・グループについて

クレディ・スイス・グループは、チューリッヒに拠点を置く、世界有数のファイナンシャル・サービス・カンパニーです。クレディ・スイスは、クレディ・スイス・グループのバンキング部門として、インベストメント・バンキング、プライベート・バンキング、アセット・マネジメント事業を世界中で展開し、アドバイザリー・サービス、包括的なソリューション、革新的な商品を、世界中の法人および富裕層個人顧客、またスイス国内の一般個人顧客に提供しています。クレディ・スイス・グループは、世界50ヶ国以上に拠点をもち、約45,000人の従業員を有しています。クレディ・スイス・グループの株式(CSGN)はスイスで上場され、米国預託証券(CSR)としてニューヨークでも上場しています。

### 予測情報に関する注意事項

本プレス・リリースには予測情報に該当する記述が含まれています。さらに、将来、当社および当社に代わって他の者が予測情報に該当する内容の声明をおこなう場合があります。かかる予測情報には当社の計画、目的もしくは目標に関する声明、当社の将来的な業績もしくは見通し、一定の偶発事由による当社の業績に対する潜在的な影響およびかかる声明の基礎となる前提事項などが含まれます。「信じている」、「期待している」、「予期している」、「企図している」、「計画している」およびこれらに類似の表現は予測情報であることを示すために使用していますが、予測情報かどうかを見分ける決定的な要因ではありません。適用される法律により要求される場合を除き、当社は特にこれらの予測情報を更新することは予定していません。予測情報の性質上、予測情報には一般的または具体的な固有のリスクや不確定要因が伴い、予想、予測、見通しおよび予測情報に記載もしくは暗示されたその他の結果が達成されないリスクが存在します。いくつかの重要な要因によって、実際の結果が予測情報に含まれる計画、目的、予想、予測および企図と大幅に異なる場合があります。留意して下さい。これらの要因には以下のものが含まれます。(i) 市況および金利の変動、(ii) 一般的には世界的な経済力、および特に当社が業務をおこなう国の経済力、(iii) 相手方の当社に対する義務履行能力、(iv) 会計、金融、貿易および税務の方針の影響およびこれらの方針の変更ならびに為替変動、(v) 戦争、社会不安、およびテロなどの政治的、社会的情勢、(vi) 当社が業務をおこなう国における外国為替管理、公用徴収、国有化もしくは資産の没収、(vii) 十分な流動性を維持し、資本市場に参入する能力、(viii) システム故障、人的エラー、もしくは手続の適正な処理不能等の業務運営上の要因、(ix) 当社が業務をおこなう国における、規制当局による当社の事業および活動に対する措置、(x) 法律、規制および会計原則もしくは実務の変更による影響、(xi) 当社が業務をおこなう地理的な地域および営業地域における競争、(xii) 有能な人材を保有し、採用する能力、(xiii) 当社の評判を維持し、ブランドを促進する能力、(xiv) 市場を拡大し、費用を管

理する能力、(xv) 技術の変化、(xvi) 当社の新商品および新サービスの適時の開発および導入、ならびに顧客による当該新商品および新サービスの認識された全体的な評価、(xvii) 買収、および買収後の事業統合を成功させる能力、(xviii) 訴訟およびその他の偶発事由による不利な結果、および (xix) 当社の上記リスクに関する管理能力。上記の重要な要因のリストはすべての要因を列挙したものではありません。予測情報を分析する場合、上記の要因およびその他の不確定要因および事由を注意深く検討すると共に、米国証券取引委員会に提出された当社の直近のフォーム 20-F およびフォーム 6-K に記載されたリスクをも検討して下さい。